



2021(令和3)年10月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)
住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15
TEL/06-6879-5111(代表)

QRコードから本院ホームページをご覧ください

<https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

新型コロナウイルス
感染症対策について

マスク着用をお願い

感染制御部長 忽那 賢志

動画1

新型コロナウイルス感染症が流行するまでは、マスクの着用は咳やくしゃみなど症状のある方へのお願いをしまし、この新型コロナウイルス感染症は症状がない人もウイルスを周りに広げることがあり、また会話などで生じる飛沫中にウイルスが含まれることがあるため、症状がない方もマスクを着けることが感染対策上、重要になります。診察時には医療従事者、そして患者さんがお互いにマスクを着用することで感染リスクを大きく減らすことができます。医師や看護師が病室に伺って診察やご説明、処置などをする際にはマスクの着用をお願いさせていただいております。もちろん事情によってマスクの着用ができない患者さんもしらっしゃいますので、その際は医療従事者がアイシールドを装着させていただきますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

マスクの着用だけでなく、こまめな手洗いも感染対策では重要です。本院の医療従事者は患者さんの診察の前後の手洗いを徹底しています。もし診察の前後で手洗いをしていない職員がいるようでしたら、ご指摘いただけましたら幸いです。

災害用物品倉庫の役割も担う

災害対策室

本院には、災害時に必要な物品を一括して保管する倉庫があり、トリアージ施設として設置される建物内に、災害用物品をまとめる倉庫が設けられることになりました。

これまでは、災害時に本院診療棟1階中央廊下を中等症診療エリアとするために設置

機器の説明を受ける土岐祐一郎
病院長と金田安史理事・副学長

室内の空気圧制御で感染対策

感染制御部

新しく完成した施設には、感染対策として陰圧の診察室2室を設置しました。室内の空気圧を室外よりも低く調整することで、感染源の室外への拡散を防ぎます。トイレも各診察室に設置し、陰圧隔離が必要な傷病者の発生にも柔軟に対応することができそうです。また、接触を避けるため、人

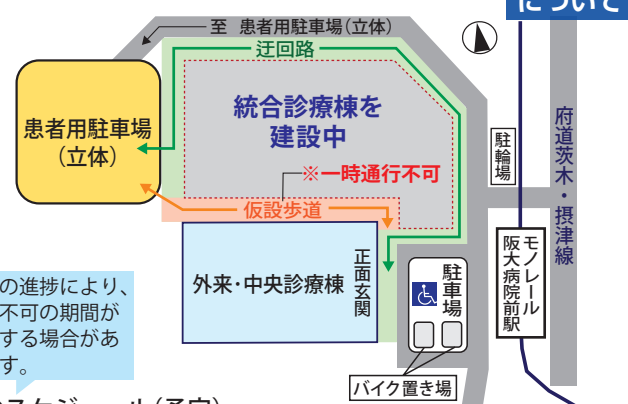
DMAT活動など多様に活用

高度救命救急センター

今回稼働するトリアージ施設は、ベッド・ストレッチャーがそのまま入れるように設計されており、高度救命救急センターとスムーズな連携がとれるようになっています。様々な状況に対応が可能となっており、災害時にはその名の通り、トリアージを実施するペースとして利用可能です。

また、軽症・中等症患者の診療スペースとして利用することも想定し、酸素ボンベを接続して利用する酸素配管が設置されています。施設の外壁には屋外シャワーが設置され、化学薬品などに汚染された患者を病院搬入前に除染することが可能になりました。高度救命救急センターを擁

患者用駐車場からの歩道整備



※工事の進捗により、通行不可の期間が前後する場合があります。

直近のスケジュール(予定)

年	2021年			2022年		
月	10月	11月	12月	1月	2月	...
迂回路	通行可					
仮設歩道	通行可	※通行不可(整備期間)			通行可	

令和7年運用開始予定の「統合診療棟」の建設工事が始まっています。工事期間中は、騒音や工事車両の通行等、ご不便とご迷惑をおかけしますが、ご理解いただけますようお願いいたします。

工事に伴い、患者用駐車場から病院までの歩道として、仮設歩道・迂回路を整備するため、約3か月間は迂回路を通行いただきますよう、お願いいたします。

また、公共交通機関にて来院可能な方は、混雑緩和のため、モノレール・バス等をご利用いただけますよう、よろしくお願いいたします。

医療情報銀行のご紹介

動画2

本院では、三井住友銀行と共同で医療情報銀行の実証事業に取り組んでおります。医療情報銀行アプリ「decisione(デシジョン)」でアカウントを開設し、本院の患者番号を登録いただくと、電子カルテと連携し、患者さんの診療情報を安全にお預かりします。この情報は、ご自身のスマートフォンで閲覧いただくことが可能です。旅先で体調が悪くなったときなど、受診先の医療機関に提示いただくことが可能です。

医療情報銀行は本院と患者さんでよりよい、より安全なカルテを作っていくためのプロジェクトでもあります。医療情報銀行に登録される診療情報で不明な点がございましたら、診察のときに主治医までお伝えください。紹介動画もごさいいますので、ご覧ください。



外来・中央診療棟2階エスカレーター横に設置された医療情報銀行特設ブース

新 診療科長等ごあいさつ

●外科系科部門長

しんたに やすし
新谷 康

外科系科部門長を土岐祐一郎消化器外科長より引き継ぎました呼吸器外科長の新谷康です。大阪大学医学系研究科の外科学は、2005年より外科学講座一つにまとまり、心臓血管外科学、呼吸器外科学、消化器外科学、小児成育外科学、乳腺・内分泌外科学からなる講座を6名の教授が中心となって運営し、各講座が協力して臨床・研究・教育を推進しています。本院における質の高い最新の医療を患者さんに提供するために、部門長として精一杯努力いたしますのでよろしくお願いいたします。(令和3年8月26日就任)

●高度救命救急センター長

おだ じゅん
織田 順

このたび高度救命救急センター長を拝命しました。日本の救命救急センターの中でも当センターの歴史は長く、高度な救急・集中治療を提供してまいりました。さらに近年では本院屋上に常時待機する大阪府ドクターヘリ、またドクターカーやDMATカーを活用して一つでも多くの命を救うべく挑戦を続けています。

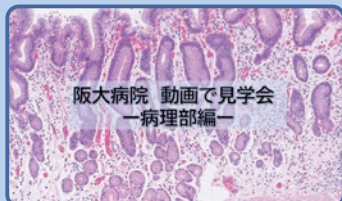
救急医療は医の原点かつ究極の地域医療です。本院の患者、地域のみならず、また近年多発する災害への対策、対応に最善を尽くしてまいります。

(令和3年10月1日就任)

市民見学会に代わる新企画

動画で

→ 病院見学会

阪大病院 動画で見学会
—病理部編—

病理部編 ▲

ベッド丸洗い編 ▼



新型コロナウイルス感染症対策のため、2年連続で市民見学会の開催を見送ることになりました。そこで、見学会に代わる新企画として本院職員が撮影した動画を順次公開していくことにいたしました。普段はなかなか見る事が出来ない本院の裏側や取り組みを担当者による解説などで紹介いたしますので、少しでも多くの方々に知っていただければ幸いです。

第1弾として、手術で摘出した臓器などを標本化し顕微鏡でどんな病気か最終診断するまでの流れが分かる「病理部編」と、専用の設備を使って院内のベッドを洗浄する工程をお見せする「ベッド丸洗い編」を公開しました。本ページ左下のQRコードよりぜひご覧ください(本院公式ホームページの「広報」からもご覧いただけます)。

PHOTO

ホスピタル
ミニ・ニュース

TOPICS

多職種チームによるグリーフケア | 小児医療センター



「たんぽぽこの会」
ホームページ開設
のお知らせ


<https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/home/pediatricc/cmc/tanpopokonokai/>

このたび、小児医療センターでは、お子さまを亡くされたご家族からのお声にお応えして、様々なグリーフ・シェアリングの場を育てていけますよう「たんぽぽこの会」HPを開設し、専用の相談窓口も設置しました。今後、イベント等についてもご案内予定です。本院公式HPの「各種相談窓口」よりアクセスしていただけます。

「第18回 阪大病院がんサロン」を開催しました。

がん相談支援室では、今年度「治療を乗り切るセルフケア力を高める」をテーマにがんサロンをオンラインで開催しています。9月21日には院内外の薬剤師にどのような相談ができるかについて講演を行いました。終了後のアンケートでは「具体的な薬剤師外来の利用方法を知ることができて良かった」とのお声をいただきました。

阪大病院医学研究奨学金
へのご寄附のお願い

本院では医学教育、学術研究や教育・研修の充実、及び病院運営に対し、企業や個人の皆様方から広く寄附金を受け入れ、その成果を通じて地域連携支援や社会貢献に役立てています。格別のご支援をお願い申し上げます。

詳しくはこちら

大阪大学医学部附属病院教育研究支援課総括係
<https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/contribution/>

阪大病院医学研究奨学金についてのお問い合わせ

e-mail ibyou-sien-soukatu@office.osaka-u.ac.jp

動画はこちら /

QRコードから関連動画をご覧
いただけるようになりました

動画1

新型コロナウイルス
感染症対策について

動画2

医療情報銀行の
ご紹介

動画3

動画で病院見学会

領域広く「全身診る科」



当科は、糖尿病をはじめ脂質異常症、高血圧症、肥満症、痛風などの代謝性疾患、間脳下垂体疾患、甲状腺・副甲状腺疾患、副腎疾患、骨粗鬆症などの内分泌疾患を診療しております。当科の領域は極めて幅広く、「全身を診る科」、「患者さんに寄り添う医師」として日々心がけて診療に従事しております。

2020年度の外來患者は約3400人、延べ40146人が通院されています。頸動脈や甲状腺エコーなどの検査に加え、インスリンポンプなど1型糖尿病に特化した外来、糖尿病合併症外来や糖尿病ケア・看護外来などユニークな診療も展開しています。

また、2012年より医師・管理栄養士・看護師のチームによる糖尿病透析予防指導を開始しました。当初、糖尿病透析予防指導の1つである栄養指導については患者さんへ1階の栄養相談室へ移動していただく必要がありました。2018年に当科外来に近接して糖尿病センターが開設されたため、糖尿病透析予防指導は本センターで完結できるようになり、患者さんの利便性も向上しております。

2020年度の入院患者は1849人で、内訳は、糖尿病1543人、間脳下垂体疾患123人、副腎疾患11

7人、甲状腺疾患29人であり、これらの疾患で95%以上を占めております。病棟医長、統括医、指導医、主治医等総勢20名にて、大学病院ならではのきめ細やかな入院診療を行っています。市中病院との大きな違いとして、原発性アルドステロン症、クッシング症候群や先端巨大症など内分泌疾患の入院が多いことが挙げられます。また、当科の特徴として、周術期の血糖管理など毎日70〜90人と多数の共観患者も担当しています。

専門医育成にも注力

現在、当科全体としては糖尿病専門医20名、内分泌代謝専門医12名、甲状腺専門医5名、動脈硬化専門医2名、肥満症専門医2名を有しております。専門医育成は、本院のみならず連携病院での診療のベースアップに繋がるものであり、また、将来の人材育成のため学生教育・実習にも力を入れています。

大学の講座診療科教室として研究にも大きな力を注ぎ、毎年、関連学会で若手の医師達中心に若手研究奨励賞など多くの受賞を果たしており、今後も医学・医療への有益な発信をしていく所存です。

様々な「痛み」を集学的に診断・治療



痛みの治療に精通したさまざまな職種が集まる集学的診療チームカンファレンス

疼痛医療センター

疼痛医療センターは、難治性の痛みや苦しむ患者さんの診断と治療を集学的に行う連携診療部門として、全国に先駆けて平成18(2006)年に開設されました。国民生活基盤調査において非常に多くの方が慢性的な痛みを抱えながら生活していることが明らかにされています。また、慢性的な痛みは生活の質の低下や経済的損失に大きく関わっていることから、厚生労働省は難治性の痛みを治療する高次医療

機関として各都道府県に痛みセンターの設置を進めており、本院の疼痛医療センターは厚生労働省政策研究班より診療体制が最も整っている集学的痛みセンターAに認定されています。痛みセンターでは、治療の難しい痛みを抱える患者さんに対して医師だけでなく複数の医療従事者が共同して患者さんの評価や治療を行うことが求められています。

本院の疼痛医療センターでは、窓口となる麻酔科ペインクリニック外来にて専門医が時間をかけて丁寧な患者さん

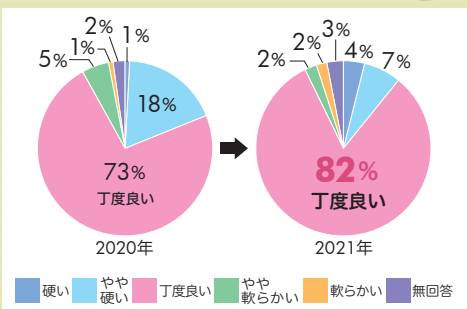


各診療科等が月1回集まって治療方針の検討を行う

の診療を行い、痛みの原因に応じてセンターに所属しているペインクリニック、脳神経外科、整形外科、神経内科、脳卒中科、リハビリテーション科、神経科・精神科での検査や治療につなげています。各診療科等が参加するカンファレンスを月1回行い、患者さんの治療方針の検討も行っています。また、集学的な治療が必要と考えられる難治性の痛みを持つ患者さんについては、ペインクリニック専門医と痛みの治療に精通した理学療法士、臨床心理士、看護師が共同して診療を行い、少しでも生活の質が改善するように週1回の集学的診療チームカンファレンスで診療結果や治療目標を共有しながら治療に取り組んでいます。大阪府はもとより、全国の痛みに苦しむ患者さんに少しでも貢献できるような、診療体制を今後さらに充実させていきたいと考えています。

病院食アンケート 結果報告

～特別治療食～ 主食の炊き方



8月に病院食アンケートを実施しました。昨年と比べて、主食の炊き方で「丁度良い」が73%から82%と大きく増加しました。昨年は米飯を硬いと感じておられる方が多かったことから、米飯の水分量を調整しました。改善に取り組んだ結果、今年は丁度良いと感じておられる方が増えており、嬉しい結果となりました。

また「食べたいメニューを具体的に伺いたい」という質問項目では、特に「焼きそば」「ラーメン」「うどん」など麺料理のリクエストが多く寄せられました。麺料理の新メニューを検討し、皆様により一層喜んでいただけるように取り組んで参ります。

病院長おすすめ御膳

～夏の中華御膳～



メニュー

黒酢豚
棒々鶏風サラダ
中華スープ
御飯
デザート

今回の病院長おすすめ御膳は、人気メニューの中から土岐病院長が選んだ酢豚をメインにした中華御膳を8月25日に提供しました。普段は使用していない黒酢を用いて、いつもとひと味違った酢豚を楽しんでいただきました。デザートは幾度も試作を重ね、一般治療食ではカラフルなタピオカをのせたココナツプリン、特別治療食では色とりどりの果物をのせた台湾スイーツの豆花(トウファ)を提供しました。どちらも初めての提供で、お口に合うか不安でしたが「濃厚でおいしかった」「デザートが珍しくて嬉しかった」など嬉しい声をいただきました。